

パラグラフ・ライティングの応用

岩本 一

1 はじめに

1995年4月から高等学校外国語科（英語）の新指導要領のライティングの目標がコミュニケーション活動としてのライティングになった。つまり、聞いてその内容を書くとか、読んでその内容を書くというような相互作用の中でライティングを学んでいこうということである。つまり、ライティングは「メッセージの送り手と受け手の間で成立するコミュニケーション活動である」というコミュニカティブ・ライティングの一面を表わし、理論上は相互作用の社会言語学に負っている。それには3つのライティングが要請されている。①パラグラフ・ライティング（Paragraph writing）、②プレイシイ・ライティング（Precis writing）、そして③プロセス・ライティング（Process writing）のことである。その内容を簡単に説明すると①のパラグラフ・ライティングは、Main idea を表した Topic sentence とそれを支える Supporting details から成る。さらに、パラグラフは、時間的順序・空間配列・例証・意見と理由等に展開できる。②のプレイシイ・ライティングは、要約文の書き方である。③のプロセス・ライティングは、書く前に周到な準備と書き下ろした後の推敲、つまりライティングの段階的指導である。新指導要領では、ライティングの指導は、この3つのライティングが中心である。

このように高校のライティング指導法は、聞いたり読んだりした内容について……書く」というようなCommunicative writingを奨励したのである。大学のライティング指導は高校で学んだ基礎をさらに発展させ Essay writing や Academic writing へと展開させなければならない。

さて、この稿では、Paragraph writing（Essay writing）を概観し、さらにこ

の Paragraph writing の論理構成を Paragraph reading と Rapid reading, Public speaking (speech) と debate、そして Discourse processing に応用した教授法 (Communicative approach) にアプローチしてみよう。

2 Paragraph WritingとEssay Writing

2.1 パラグラフの構成要素と基本構造

A パラグラフの構成要素

a) 導入文 (Introductory sentence)

導入文は冒頭に置かれ、以下に述べる話題を読者に知らせたり、ほのめかしたりする働きをする文である。省略される場合もある。

b) 主題文 (Topic sentence)

主題文は書き手が一番表現したいこと (Main idea) の提示である。主題文は主題の曖昧さを避けるために必ず、One paragraph→One topic sentence→One main ideaの原則を守らなければならない。

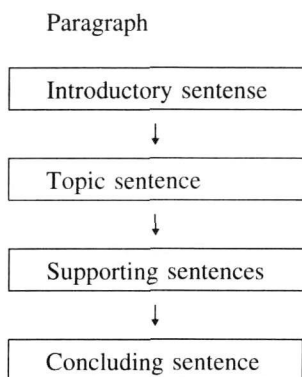
c) 支持文 (Supporting sentences)

支持文は主題文で書いたことの妥当性を明らかにするため、理由、実例、証拠などを述べる。

d) 結語文 (Concluding sentence)

結語文はパラグラフの終了を示し、さらに読者に一般的なメッセージを与える。結語文は主題文を言い換えたり、主題から引き出せる一般論を書いたり、印象的事例を書いたりする文である。省略される場合もある。

B Paragraphの基本構造



2.2 エッセイ・ライティングの構成要素と基本構造

A エッセイ・ライティングの構成要素

(1) Introduction (序論)

Introductory paragraph (導入パラグラフ) はトピックを紹介し、そのトピックに書き手の見解についていくつかの背景を与え、その作文のthemeを確認する。したがって、序論が望ましくなければ、読み手はトピックに対する書き手の考えを理解するのが困難になる。

エッセイの序論の書き方は、トピックに対してGeneral statementで始まり、次に、もっと特別となる別のGeneral statementを書く。それから徐々にThesis statementに導いて終わる。これが普通の序論の書き方である。

読み手はThesis statementを通して、トピックについての書き手の特別な意見やアイデアを学び、さらにライティングの目的や書き手のトピックに関する見解(立場)を知る糸口にもなり、最後に、書き手が述べるMain ideas (points) やその順序(配列)についての情報、つまり作文の構成を見つけることができる。

(2) Conclusion (結論)

Concluding paragraph は常に簡単明瞭でなければならない。

エッセイの結論の書き方は、さまざまな言葉を使って Thesis statement の Main ideas (points) を繰り返し述べたり、序論の言い換えやそれまでの論述の要約である。したがって、結論は前に述べたことをそのまま繰り返すことではない。あくまでも、結論は読者に新しいアイデアや意見を与え、その作文に対して印象深い ending を与えることである。

結論を示唆する手助けとして、次のつなぎ語を使う。それらは文の初めか、真中に使われ、コンマを使う。

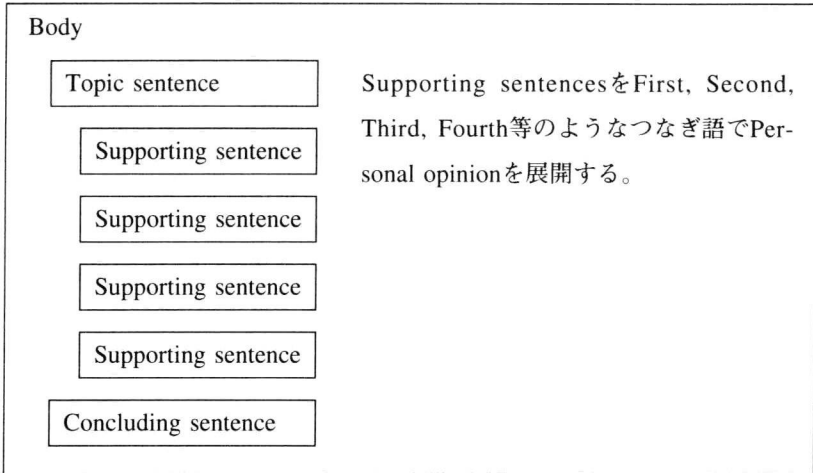
To summarize,	Ultimately
In summary,	Finally
In conclusion,	In the end
To sum up,	In closing
All in all,	In short

(3) Body or Supporting Paragraphs (本論)

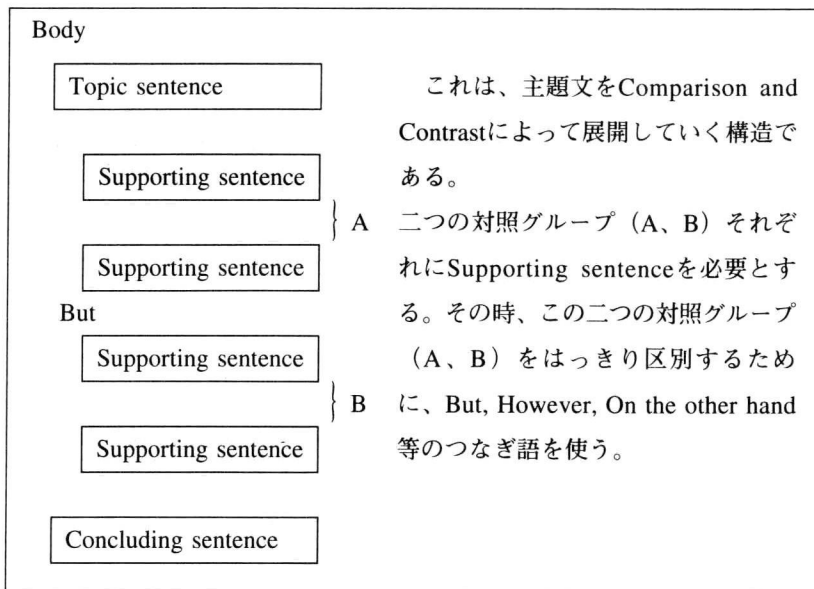
本論はthesisを展開するパラグラフである。したがって、さまざまなパラグラフの特徴によって、いろいろな構造を持ったエッセイを書くことができる。つまり、(1)過程と指示のパラグラフのように順序副詞 (First, Second, Third, Fourth, or First, Next, Then, Finally) を使ってPersonal opinionを展開したり、また (2)比較と対照のパラグラフのように類似点や相違点を述べる時、But, However, On the other hand等のつなぎ語を使って対照の構造を示す場合もある。さらに (3)説得のパラグラフのように、自分の意見に対する理由を述べたり、自分の反対意見を提示し、それらに再反論を展開したりする。したがって本論の構造もパラグラフの構造によって千差万別に変えることができる。

では上の (1)、(2)、(3)のパラグラフの構造を書いてみよう。

(1)



(2)



(3)

Body Reasoning my opinion	Topic sentence	序論で述べた自分の意見に対する理由。
	Supporting sentences	この理由の妥当性を裏付ける具体的な事実や統計データを挙げる。
	Concluding sentence (optional)	自分の意見をTopic sentenceと違う言葉で言い換える。
Opposing View & Counter Argument	Introductory sentence	自分の意見に対する反論。
	Topic sentence	自分の再反論を述べる。
	Supporting sentences	再反論の根拠理由を述べる。
	Concluding sentence (optional)	自分の意見をTopic sentenceと違う言葉で言い換える。

B エッセイの基本構造

Essay

Introduction	(序論)
Body	(本論)
Conclusion	(結論)

* BodyはSupporting paragraphsである。

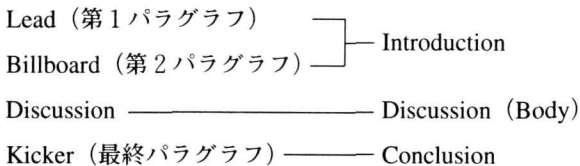
3 Paragraph ReadingとRapid Readingへの応用

3.1 Paragraph Reading ⁽¹⁾

Reading は、Bottom-up readingで単語や文を読み解く前にTop-down readingでparagraphの論理構成を捉え、文章全体の流れをつかみ、その文章がいかに論理的に組み立てられるかを把握する事が大切である。なぜなら、Paragpah writing と Paragraph reading は表裏一体の関係にあるからその違いは、パラグラフを巡って書き手の側に立つか、読み手の側に立つか視点の違いになる。

A 主題の読み取り方

Paragraph reading の中で最も重要なことは主題を読みとることである。Becker (1992) はノンフィクションの読み物の場合は、各パラグラフの第1センテンスが Topic sentence (主題文) であることが多いと言う。つぎに、ニュース雑誌の一般記事などの場合、主題はパラグラフの第2センテンスになっている場合もままある。しかし、だいたいニュース雑誌の主題の場合は第1センテンスと第2センテンスを合せて読めばよい。それから、各パラグラフの主題だけでなく記事全体における主題を読み取るためには第1・第2パラグラフと最終パラグラフを注意して読めばよい。たとえば、News week などの雑誌を列にとると、次のような文章構成になる。



Leadで読者の興味を引き Billboardでtopic または問題点をはっきり提示し、Discussionで問題を分析し、Kickerでまとめや今後の予測を提示する。また、新聞の一般記事の場合は逆三角形方式と呼ばれる構成になっており、見出しと第1パラグラフを読めば主題や概要はつかめるはずである。

3.2 Rapid Reading ^(2,3)

Top-down readingは Paragraph reading, skimming (飛ばし読み)、そして scanning (探し読み) などを含む。トップ・ダウン・リーディングには5つの戦略がある。

- (1) 扱われている事柄についての背景知識があれば、そのtextの理解が促進される。
- (2) 題目や小見出しに加えて、序論・結論等をスキミングすることによって、textの全体像を捉える。
- (3) text自身が答えるだろうと思われる内容についての設問を用意した上で、スキミングを試みる。
- (4) 与えられたtextがどのようなジャンルに属するものであるかを判断する。
- (5) 書かれている事柄がより重要な情報であるか否かを識別する。例えば、主題文と支持文を区別すること (Paragraph reading)。

このように Top-down reading はパラグラフ・リーディング、スキミング (飛ばし読み)、そしてスキニング (探し読み) を含んでいるのである。

Gunderson (1991) はスキミングは text から一般情報、概要を得るため飛ばし読みする方法であると述べた。ウォレス (1991) はスキニングを必要な情報を求めてtextを探し読みしていく技法であると定義している。これは、ディベートに参加する学生が証拠として使える情報を求めるときに使える技法である。

例えば、英語の論理的文章では、序論→本論→結論と進み、序論には、その文章の主題があり、結論には重要なポイントがまとめられているので本論の部分は飛ばし読みしても論旨ははずさない。また、パラグラフの中では、一般に最初と最後のセンテンスに主な論点があるので展開部分は飛ばし読みすればよいのである。あらかじめこのように、文章構造を頭の中に入れて読み進めば、飛ばし読みが実現し速読にも応用できるのである。

最後に、ノンフィクションの読み物に限定して、小林（1982）はプレ・リーディング（前読み法）を紹介している。それは、論文や本の第1章の最初の3ないし4節（パラグラフ）は全文読み、最後の2ないし3節（パラグラフ）も全文読む。ただし途中の節（パラグラフ）は各節（パラグラフ）の第1文のみを読めばよい。これは、論文や本の速読術に応用できる。

4 Public SpeakingとDebateへの応用

4.1 Public Speaking (Speech) ⁽⁴⁾

Public speaking とは、一人の話者がグループの聴き手、または多くの聴衆に対して話者の情報や思想・主張・提案・論証などを伝えるコミュニケーションである。これは Public communication と呼んだり、Public address とか speech, さらに Rhetorical communication という場合もある。

A. Public Speaking の構成、配列

パブリック・スピーキングの構成は、話者の情報や考え、さらに思想の順序立てである。したがって、その構成は、①序論、②本論、そして③結論である。これは、パラグラフ・ライティングの論理構成と同じである。では、序論から概観してみよう。

1 序論

序論で、㉑聴き手・聴衆の注意を引くこと、㉒むずかしい用語の定義づけをする必要があれば定義づけをすること、㉓スピーチの話題の範囲を規定すること、㉔スピーチの主要目的を知らせること、が要求される。

2 本論

本論では、㉕ Time order（時間経過順的配列）、㉖ Topical order（項目別的配列）、㉗ Spatial order（空間的配列）そして㉘ Logical order（論理的配列）のいずれかに配列されなければならない。さらに論理的配列には、㉙ 帰納法

の論法による配列、① 因果関係の論法による配列、② 問題解決の論法などの配列方法がある。

さらに本論はいずれの配列方法であっても General topic (一般話題) と Specific topic (特別話題) が準備され配列されるべきである。

その時 General topic は少なくとも 3 つの異なった話題を用意しなければならない。

例えば、Informative communication の本論の配列は、Time order, Topical order、そして Spatial order が一般的である。Persuasive communication の本論の配列は Logical order、Topical order そして Time order などが一般的な配列である。

3 結 論

結論において、① 話し手は自分の話したことを手短にパラフレイズし、要約して終る方法。② 話し手自身の Concluding remarks (結びの言葉) をつけ加えて終る方法。③ 話し手が結びの言葉のみでスピーチを終る方法などがある。

以上述べたように、序論、本論、結論の方法論に従って原稿を書き、それを暗唱して、人前で発表するのが正式のスピーチである。

4.2 Debate ^(5,6)

ディベートは、ゲーム形式の討論である。ひとつの proposition (論題) を Affirmative side (肯定例) と Negative side (否定例) のふたつに分かれ、一定のルールに従って討論を進め、最後に第三者が、いかにうまく納得のいく論を立てたか (立論)、いかに対立する主張を説き伏せ (反論) 論破に成功したかを評価して判断を下すのである。

ディベートの進行順序は次のようになる。

- (1) 賛成側による立論 (Pro constructive speech)
- (2) 反対側による立論 (Con constructive speech)

- (3) 相手側に対する反論と論破 (Rebuttal and Refutation)
- (4) 否定側のまとめ (Con summary speech)
- (5) 肯定側のまとめ (Pro summary speech)

では、ここでParagraph writingとdebateの関係をディベートの「立論」、
「反論」、そして「論破」というキーワードで説明する。

①立論

立論とは、賛成論か反対論を立てて、それに関連した論拠（客観的事実、統計、専門家の見解）を提出することである。

②反論

反論とは、相手側の立てた論に反対の意見と理由を述べて言い返すことである。

③論破

論破とは、相手側の論の弱点を突いて言い負かすことである。つまり、相手側の批判する意見と考えを表明し、自分の側の論の優越性を強調し、相手側を論理的に論破することである。

以上、立論、反論そして論破を概観してきたがディベートの本質は意見と理由、例示や列挙などのパラグラフ・ライティングの構成要素を兼ねそなえている説得文のエッセイと一致するのである。

次に、説得文の構成要素と構造⁽⁷⁾について述べる。

1. 賛成意見の構成要素と構造

序論	第1パラグラフ (Thesis)	自分が扱うテーマを示し、自分の主張 (thesis) を述べる
本論	第2パラグラフ (Reasoning 1)	序論で述べた自分の意見に対する1番目の理由を述べる。さらに、この理由の妥当性を裏付ける具体的な事実や統計データを添える。
	第3パラグラフ (Reasoning 2)	序論で述べた自分の意見に対する2番目の理由を述べる。第2パラグラフと同様に、この理由の妥当性を裏付ける具体的な事実や統計データを添える。
	第4パラグラフ (Opposing view & Counter argument)	自分の意見への予想される反論を提示し、さらに再反論を展開する。
結論	第5パラグラフ (Conclusion)	それまでの陳述をふまえ、序論で述べた意見を違う言葉で言い換える。

2. 反対意見の構成要素と構造

序論

- (1) Introduction (導入) : テーマが何であるか明らかにする。
- (2) Contextualization (文脈化) : 掲げたテーマの中で自分が何を問題にするか明らかにする。
- (3) Thesis (主張) : 賛成か反対か自分の立場を明らかにする。
- (4) Essayの構成 : 「以下に上述の意見の論拠を説明したい」というようなつなぎ文を示す。

本論

p30 の (3)のBodyを参照。

結論

Concluding structure (optional) : 結語文は自分の意見 (再反論) を Topic sentence (thesis) と違うことばで言い換える。

5 Discourse Processing (談話のリスニング)^(8,9)への応用

discourse (談話) とは、Crystal (1985) によれば「会話や冗談、説教やインタビューなどのような認められ得る発話の出来事 (場面) を構成する——まとまりの発話」である。つまり会話とかインタビューのようなコミュニケーション状況を構成する——まとまりの発話 (a set of utterance) を談話という。

では、この節の目的である隣接する発話や談話の聞き取りに Paragraph writing がどのように使われているかその戦略について述べる。

5.1 談話 (パラグラフ) のリスニング

まず、談話 (パラグラフ) を聞きとるには、パラグラフ・ライティングやエッセイ・ライティングの論理構成や基本構造を理解していなければならない。つまり、パラグラフは主題文と支持文からなり、主題文で書き手の主題を述べ、支持文でそれを裏づける論拠を示すのである。だから、最初の文は主題文 (たまには導入文) から始まるのでよく聞く必要がある。もし、聞きとりにくい場合は、パラグラフの最後の文が結論であり、もう一度主題文を言い換えているからよく聞き、そしてキーワードの繰り返しや言い換えに留意する必要がある。

次に、パラグラフを含む談話 (テキスト) の種類に注目しなさい。

(1) Narrative writing (物語文)

過去の経験や出来事について次々に述べている文章である。つまり、時間的順序によるパラグラフ展開である。

(2) Descriptive writing (描写文)

人物や物体や場所の視覚的特徴を描写したり、記述したりする文章である。たとえば、場所の場合には、空間配列のパラグラフ展開を行う。

(3) Expository writing (説明文)

物事を客観的に説明したり、論じたりする文章である。例示、定義、分類、比較・対照、因果関係などのパラグラフ展開を行う。

(4) Argumentative writing (論説文)

自分の意見を論じる文章である。意見と理由のパラグラフ展開を行う。

(5) Persuasive writing (説得文)

自分の意見や提案を相手に納得してもらおうとする文章である。意見と理由のパラグラフ展開を行う。

- ①②は日常的に家庭や社会で聞いたり、読んだりする話や物語に多い。
- ③はいわゆる Academic writing なので大学の様々な科目に現れる文章である。
- ④は意見発表に不可欠な文章である。
- ⑤は説得型のコミュニケーションに使う文章である。特に④、⑤は英語のスピーチやディベートに応用できる。

以上、談話(テキスト)の種類と展開を概観してきた。これらの Paragraph writing (Essay writing) に習熟し、パラグラフの論理構成を理解し談話のリスニングに応用することが可能である。

最後に、パラグラフ・リーディングで述べた Top-down reading の5つの戦略の中のスキヤニング(探し読み)をリスニングにも利用してキーワードを拾い聞きすることができる。また、Top-down reading の「本文の内容を形式についての背景知識があれば、そのテキストの理解は促進できる」という戦略を談話のリスニングにも応用できる。なぜなら、聞き手は自分のもっているスキーマを利用して与えられたテキストを類推によって聞き取ろうとするからである。したがって、聞き取りのために行なわれる推論は、たいてい類推によるものである、と言えるだろう。なぜなら、Paragraph reading と Paragraph writing とは表裏一体の関係にある。そこで類推のパラグラフ・ライティングを理解することによって速読に利用できる。

6 おわりに

パラグラフ・ライティングは、オーラル・コミュニケーションにも関連している。つまり、debate でスピーチを行う前には、スピーチ・コンポジション

(論説文や説得文など)が必要になる。また、オーラル・コミュニケーションC「自分の考えなどを整理して発表したり話し合う能力を養う……」のスピーチの学習に通じる。それから、口頭発表されたスピーチは Top-down reading の戦略を使って全体の構成と展開を聞き取らなければならない。その仕事はオーラル・コミュニケーションB「聞き取る能力を養う……」に属する。最後にパラグラフ・ライティングは大学入試の「小論文」やTOEFLの「Writing」にも応用できる。

このように、パラグラフ・ライティングとはライティングを孤立させるものではなく、reading (Top-down reading) やspeech (Public speaking の構成・配列) や listening (談話のリスニング) を統合させるコミュニケーション活動の中心になるべきである。換言すれば、パラグラフ・リーディングから談話のリスニングの橋渡しになるべきである。

注

- 1 橋本満弘・石井敏編、「英語コミュニケーションの理論と実際」pp.158～162
- 2 Ibid.;、pp161～162
- 3 橋内 武、「パラグラフ・ライティング入門」pp170～171、1995、研究社
- 4 Ibid.;、前掲書「英語コミュニケーションの理論と実際」pp112～1251
- 5 Ibid.;、pp126～136
- 6 Ibid.;、前掲書「パラグラフ・ライティング入門」pp179～182
- 7 Haruhiko Shiokawa/Leo Yoffe、「Critical Writing」p27、p41
- 8 Ibid.;、pp6～7、pp183～188
- 9 Ibid.;、前掲書 pp80～84

参考資料

- 1 橋本満弘・石井敏編、「英語コミュニケーションの理論と実際」1996、桐原書店
- 2 橋本満弘・石井敏編、「コミュニケーション論入門」1997、桐原書店
- 3 橋本満弘・石井敏編、「日本人のコミュニケーション」1995、桐原書店
- 4 宮原 哲、「入門コミュニケーション論」1997、松柏社
- 5 近江 誠、「英語コミュニケーションの理論と実際」1996、研究社出版
- 6 橋内 武、「パラグラフ・ライティング入門」1995、研究社出版
- 7 Haruhiko Shiokawa/Leo Yoffe, "Critical Writing" 1996, Kirihara Shoten
- 10 Hajime Iwamoto/Nicholas Lambert, *From Reading to Writing*, 1997, Sekaiseitenkanko Kyokai
- 11 山村三郎、岩本 一、Dean Lanaras, *Writing in English from Basic to Paragraphs*, 2001, Seibido
- 12 White, Ron & Valerie Arndt, (1991)、*Process Writing*, Burnt Mill, Harlow:Longman
- 13 天満美智子、「英語読解のストラテジー」1989、大修館書店
- 14 松本 茂、「英語ディベート実践マニュアル」1987、バベル・プレス
- 15 福島佐江子、松本 茂、「コミュニケーションな英作文をめざして(1)(2)」1983/1984、ビビュロス
- 16 Financchiaro, M (1968), *Teaching English as a Second Language*, Revised & Enlarged. N.Y.:Harper & Row
- 17 Becker, C (1992), *English Thinking in English Writing*. Tokyo:Nam'un Do
- 18 小林薫、「時間と上手につきあう法」1982、こう書房
- 19 Gunderson, L, (1991). *ELS Literacy Instruction: A Guide to Theory and Practice*. NJ:Prentice Hall Regents
- 20 Klopff, Donald W, and Takehide Kawashima. *The Basic of Public Speaking*. 1991, Sansyusha

- 21 Wagner, Joseph A. and Takehide Kawashima, *An Introduction to English Speech*. 1989, Eichosha
- 22 Widdowson, H. G. 東後勝明、西出公之訳、「コミュニケーションのための言語教育」、1991、研究社
- 23 Johnson, Keith and Morrow, Keith (ed.) 小笠原八重訳「コミュニケーション・アプローチと英語教育」、1984、桐原書店
- 24 篠田義明、「コミュニケーション技術」、1986、中公新書